

## 様式

# 自己評価委員会報告書

自己評価委員会委員長

実施機関から提出された自己評価等報告書について、下記のとおり助言したので、委員会意見を付して報告します。

令和6年5月22日

### (対象年度)

対象年度	令和5年度(2023年度)
------	---------------

### (評価対象)

実施機関名	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学科 国際コミュニケーション学科、健康栄養学科、デザイン環境学科</li><li>・ 委員会 教務委員会、厚生委員会、進路支援委員会、広報委員会、入試委員会、科学研究委員会、地域連携センター運営委員会、データ駆動科学教育研究センター運営委員会、自己評価委員会</li><li>・ 事務局</li></ul>
-------	---

### (主な助言)

<p>(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 令和6年3月8日付け「R6年度運営に当たって(学長方針)」で指示されている項目に重点的に取り組むこと。(共通)</li></ul> <p>(学科)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新入生アンケートで、カリキュラムを重視する傾向が高くなってきていることから、教務委員会や広報委員会等の関連委員会と連携し、魅力づくりと情報発信に努めること。(共通)</li><li>・ 本学の将来構想で、地域の研究機関、地域課題の解決につながる知見が求められていることから、地域連携センターや科学研究委員会等の関連委員会と連携し、教育研究の質向上に努めること。(共通)</li></ul> <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 第4期機関別認証評価で、学生の視点に立った(学生意見を取り入れた点検評価)内部質保証の仕組みが求められていることから、委員会運営において、学生意見等も検討資料として用いること。(共通)</li><li>・ 運営費決算で、一般財源比率の増加傾向が続いていることから、既存事業を見直し、事業成果や優先度をつけて予算編成をすること。(事務局)</li></ul>
--

### (自己評価委員会意見)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各実施機関の役割に対して「取り組んだ結果は何か。実施機関としてどのような理解を持っているか。課題にはどのように取り組むのか。」を意識して取り組まれている。</li><li>・ 学科会議などで情報共有し、属人化することなく組織として取り組む風土が出てきている。</li><li>・ 令和5年認証評価結果の指摘等事項に対し、改善状況を適時把握し、各実施機関に対して必要な助言をしていく。</li><li>・ 本学の将来構想の具体化に向けて、各実施機関の業務が増えてくることから、厚生委員会等とも連携し、執行部会議(学長)に業務改善等の提言をしていく。</li></ul>
---

### 添付資料

- ・ 自己評価等報告書(実施機関作成)

## 自己評価等報告書

## (評価対象)

実施機関名	国際コミュニケーション学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学科共通の教養教育科目と、本学科での専門教育科目によってカリキュラムを構成しています。専門教育科目は領域共通科目と、各領域専門科目により構成されています。</li> <li>1. 専門教育科目は、段階的に知識や実践力を身につけることができるよう、年次や学期が進むにつれて発展的な内容になるように構成されています。</li> <li>2. 領域共通科目では、各領域での学びを概観するための領域入門科目と、すべての領域に共通して、国際社会や地域社会の課題に取り組むために必要となる知識や実践力を身につけるための科目を展開します。</li> <li>3. 各領域専門科目には、ディプロマ・ポリシーに掲げる4つの領域（現代社会、文化交流、英語、東アジア言語）の知識や実践力を身につけるための科目を展開します。学生は自らの目的に沿って、これらの領域のいずれかに所属し、他の領域の科目も履修しながら、国際社会や地域社会の発展や問題解決に資する力を身につけていきます。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルな視点を養いつつ、地域社会に根ざした実践教育を通じ、さまざまな文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションを取りながら、協働してよりよい地域社会をつくっていく際に中心的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野を現代社会、文化交流、英語、東アジア言語の4領域とし、領域を横断しながら学びます。この目標を満たし、各領域の定める力や姿勢を身につけた人材に対し、「短期大学士（国際コミュニケーション学）」の学位を授与します。</li> </ul> <p><b>現代社会領域</b>：地域や世界が抱える諸課題の解決や、地域や世界の持続的な発展のための行動に必要な知識とスキルを身につけ、活用することができる。</p> <p><b>文化交流領域</b>：さまざまな国や地域の文化や価値観に対する知識と、それを尊重する姿勢を身につけ、コミュニケーションの場で中心的な役割を果たすことができる。</p> <p><b>英語領域</b>：世界共通語とされる英語の実践力を身につけ、さまざまな情報や自らの意見を、国際的な場面や地域社会に向けて発信することができる。</p> <p><b>東アジア言語領域</b>：隣国であり人的往来が最も多い中国、韓国の言語や日本語を、国内外でのコミュニケーションのために使用し、観光や外国人支援などの場で中心的な役割を果たすことができる。</p> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな文化的背景をもった人々と協働し、地域と世界のつながりを意識しながらその持続的な発展のために行動する意欲をもった者の入学を求めています。日本を含むさまざまな国や地域の社会・文化について深く学ぶ意欲、コミュニケーションの手段としての英語や中国語・韓国語の習得に対する意欲をもった学生を歓迎します。</li> </ul>
-------------------------------	--

現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを策定し、授業を実施した。【受講者数】</li> <li>・GPA 平均(英語英文)は、2.74(R4 卒業生は 2.95) GPA 平均(国際文化)は、2.89(R4 卒業生は 3.05)【GPA の状況】</li> </ul> <p>→・シラバスの記載内容を学科で点検し、ポリシーとの整合性を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶ能力を高めるため、コンソーシアム岐阜の地域課題解決提案事業に参画した。</li> <li>・学生の領域選択を支援するため、ガイダンスを実施した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・69 人(英語英文 26、国際文化 43)に短期大学士を授与。【卒業生の状況】</li> <li>・能力を自己点検するため検定等を奨励した。【検定等の取得状況】</li> <li>・主体的な学びの関心度(英語英文)は、100%(R4 は 97.1%) 主体的な学びの関心度(国際文化)は、97.5%(R4 は 94.7%)【卒業時アンケート】</li> </ul> <p>→・卒業生アンケート結果を学科会議で共有・検討し、カリキュラムの充実の参考にすることにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学者や退学者を減らすため、学生の学修生活状況に応じて、面談や補講を実施した。</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R6 入学生は、50 人(志願者 83 人)【入学生の状況】</li> <li>・本学科を希望した理由の第 1 位は、「学びたい環境・カリキュラムがあるから」(R5 は「公立であるから」)【新入生アンケート】</li> </ul> <p>→・入学選抜方法を見直した。</p> <p><b>学生満足度を向上する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオの本格実施により、学生一人ひとりの学修の方向性や進路を把握することで、学生の現状確認を支援できた。</li> </ul> <p><b>その他の教学の内部質保証の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長が授業アンケートの自由記述に記された指摘・要望(同様なものが複数ある場合)の対応方針を担当教員から報告を受け確認した。</li> </ul> <p><b>R5 学長方針事項「地域連携/DS センター、SPARC 事業に参加すること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議で活動状況を適時情報共有し、参画を推奨した。</li> <li>・SPARC 事業の地域ラボでの活動を計画した。</li> </ul> <p><b>R5 学長方針事項「学科活動を公表すること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科活動を公表するため、ぎふメディアコスモスで教員活動をパネル展示した。</li> </ul>
------	---

**(令和 5 年度重点目標の達成状況)**

重点目標	1. 国際コミュニケーション学科の定員を充足する。
達成状況	・定員を充足できなかった。充足率 55.6%(R5 は 71.1%)【入学者の状況】
改善事項及び成果	<p>1-1. 入学選抜方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜を併願、既卒者を可とし、スクリーニングを任意とし、評価において資格取得等を加点対象とした。</li> <li>・学校推薦型選抜を、既卒者を可とし、専門高校枠を新設した。</li> </ul> <p>→・既卒者、専門高校枠の応募はなかった。</p> <p>1-2. 広報に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパス・進学ガイダンス・高校訪問・SNS を利用した。【広報活動の状況】</li> </ul> <p>→・情報収集様式を統一し、情報を学科内で共有できた。</p> <p>1-3. カリキュラムのさらなる充実の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やさしい日本語(作文)」と「日本語教授基礎理論」を開講した。</li> </ul> <p>→・日本語教育について卒業論文を作成する学生がいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語コミュニケーションⅠ」を「Ⅰa」(アメリカ英語)と「Ⅰb」(イギリス英語)に分け、授業を充実することとした。</li> </ul>

	<p>→・R6 年度から実施する。</p> <p>1-4. 海外交流の拡充（海外研修、協定等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国大連大学との編入学協定を検討し、署名を準備している。</li> </ul> <p>→・大連大学への留学を希望する学生がいた。</p>
根拠資料	【統計資料】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員を充足する。</li> </ul> <p>→・入学者選抜方法の変更情報が遅かったと考えるため、早期に多様な媒体を利用して周知していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科及び教員の教育・研究・地域連携活動の情報をさらに広報し、活動の魅力化・特色化を進める。</li> </ul>

**(令和 6 年度重点目標と方策)**

重点目標	1. 国際コミュニケーション学科の定員を充足する。
方策	<p>1-1. 学科の教育研究活動の魅力を再度検討し、広報する。【R6 学長方針事項】</p> <p>1-2. 各入学試験の特色を高校、受験生に広報する。</p> <p>1-3. 学科のカリキュラムポリシーに教育課程の実施に関する基本的な考え方を示す（教育の実施方法を記載する）。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(国際コミュニケーション学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

(英語英文学科開講分)

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
実用英語	ライティングⅠ	1	1	50	37	27		
	ライティングⅡ	1	1	49	37	26		
	ライティングⅢ	1	2	48	52	34	26	
	ライティングⅣ	1	2	47	54	35	26	
	英文法Ⅰ	1	1	50	37	27		
	英文法Ⅱ	1	1	49	38	26		
	オーラル・イングリッシュⅠ	1	1	50	37	27		
	オーラル・イングリッシュⅡ	1	1	49	37	26		
	オーラル・イングリッシュⅢ	1	2	37	48	32	23	
	オーラル・イングリッシュⅣ	1	2	16	42	12	12	
	リーディングⅠ	1	1	50	37	27		
	リーディングⅡ	1	1	49	37	26		
	リーディングⅢ	1	2	45	51	33	25	
	リーディングⅣ	1	2	20	27	19	13	
	エクステンシブ・リーディング	1	1		9	11		
	英会話AⅠ	1	1	50	37	27		
	英会話AⅡ	1	1	49	37	26		
	英会話BⅠ	1	1	40	27	17		
	英会話BⅡ	1	1	35	16	6		
	英会話AⅢ	1	2	48	52	34	27	
	英会話AⅣ	1	2	48	53	35	27	
	英会話BⅢ	1	2	39	21	14	14	
	英会話BⅣ	1	2	21	19	8	9	
	海外英語演習	2	1・2	0	0	10	0	
	ビジネス・イングリッシュ	1	2	47	48	32	24	
	タッチタイピング演習	1	1	39				
	英語情報教育演習	1	1	34	24	26		
	英語論文演習	1	2	33	32			
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1		29	21		
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1	1		14	11		
	アカデミック・イングリッシュⅢ	1	2			9	19	
	インターネット・イングリッシュ	1	2	18	15	22	13	
検定英語演習Ⅰ	1	1	45	37	19			
検定英語演習Ⅱ	1	1	40	35	18			
英文購読	イギリス文学講読Ⅰ	1	1	49	37	27		
	イギリス文学講読Ⅱ	1	1	49	38	24		
	アメリカ文学講読Ⅰ	1	1	39	36	27		
	アメリカ文学講読Ⅱ	1	1	45	25	26		
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1	50				
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1	1	26				
英米関係講義	イギリス文学史	2	2	37	47	32	27	
	イギリス文化論	2	2	47	50	33	17	
	英語学概論Ⅰ	2	1	42	43	26	1	
	英語学概論Ⅱ	2	1	29	39	25	1	
	英語コミュニケーション論Ⅰ	2	2	50		34	26	
	英語コミュニケーション論Ⅱ	2	2	49		32	23	

	英語レトリック概論	2	2	35				
	英語圏社会と文化	2	2		32	35	25	
	現代アメリカ事情	2	2	43	52	33	27	
	英語教育学概論	2	2	32	35	24	20	
参加型科目	英語コミュニケーション研究Ⅰ	2	2	11	8	6	4	
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	2	2	11	9	6	4	
	アメリカ文学研究Ⅰ	2	2	8	5		6	
	アメリカ文学研究Ⅱ	2	2	8	5		6	
	イギリス文学研究Ⅰ	2	2	9	14	13	5	
	イギリス文学研究Ⅱ	2	2	9	14	13	5	
	英語学研究Ⅰ	2	2	6	6	4	6	
	英語学研究Ⅱ	2	2	6	6	4	6	
	英語習得研究Ⅰ	2	2	10	12	7	4	
	英語習得研究Ⅱ	2	2	9	13	7	4	
	アメリカ社会研究Ⅰ	2	2	4	7	4	1	
	アメリカ社会研究Ⅱ	2	2	4	6	5	1	
		インターンシップ	1	1	0	0	0	

(国際文化学科開講分)

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
異文化の理解	比較文化論	2	2	67	59	42	46	
	多文化共生論	2	1		43	45	2	
	文化人類学	2	2	55	0	28	34	
	日本文化論	2	1	60	44(1)	44		
	民俗学	2	2	34	31	28	12	
	アジア文化論	2	1	60	37	48		
	中国文化論	1	1	55	32	29		
	韓国文化論	1	1	42	27	29		
	英米文化論	2	2	60	0	42	38	
	ヨーロッパ文化論	2	2	49	32	28	44	
	文化交流論	2	2	20	25	29(2)	15	
	日本文学論	2	1	34(2)	28	33(1)		
	比較文学論	2	2	36	27	33	41	
	国際関係論	2	1	59	26	47		
国際協力論	2	2	56	48	39	41		
情報・言語 コミュニケーション科目	異文化コミュニケーション	2	2	77	60	42	47	
	情報社会論	2	2	8	12			
	英会話Ⅰ	1	1	60				
	英会話Ⅱ	1	1	59				
	英会話Ⅲ	1	2	24	51			
	英会話Ⅳ	1	2	8	25			
	カレッジ・イングリッシュⅠ	1	1		35	37		
	カレッジ・イングリッシュⅡ	1	1		28	17		
	カレッジ・イングリッシュⅢ	1	2		0	18	21	
	カレッジ・イングリッシュⅣ	1	2		0	11	11	
	海外言語・文化演習(英語圏)	1		0	0	14	0	
	海外言語・文化演習(韓国)	1		0	0	0	3	
	海外言語・文化演習(中国語圏)	1		0	0	0	4	
	初級中国語Ⅰ	1	1	52	37	41		
	初級中国語Ⅱ	1	1	51	32	45		
中級中国語Ⅰ	1	2	65	29	29	31		

	中級中国語Ⅱ	1	2	27	15	27	14	
	応用中国語Ⅰ	1	2	38	31(1)	13	18	
	応用中国語Ⅱ	1	2	24	0	14	12	
	初級中国語会話Ⅰ	1	1	55	37	34		
	初級中国語会話Ⅱ	1	1	52	33	33		
	中級中国語会話Ⅰ	1	2	62	27	28	30	
	中級中国語会話Ⅱ	1	2	46	14	28	14	
	韓国語(入門Ⅰ)	1	1	53	37(3)	38		
	韓国語(入門Ⅱ)	1	1	41	28(2)	30		
	韓国語(会話Ⅰ)	1	2	28	23	19	21	
	韓国語(会話Ⅱ)	1	2	17	11	13	12	
	韓国語(文法・読解Ⅰ)	1	1	36	19	38		
	韓国語(文法・読解Ⅱ)	1	2	25	18	16	19	
	情報処理概論	2	1	60				
	情報科学概論	2	1		43			
	情報・統計処理	1	1			33		
	認知情報処理	1	1		17			
	情報処理演習Ⅰ(表現)	1	1	59				
	情報処理演習Ⅰ(関数)	1	1	59				
	情報処理演習Ⅱ(応用)	1	2	23	46			
	情報処理演習Ⅲ(発展)	1	2	23	17			
	やさしい日本語(作文)	1	2				27	
	日本語表現法Ⅰ	1	1	60	43	44		
	日本語表現法Ⅱ	1	1	41	34	28		
関連科目	現代国際事情	2	1	35				
	国際経済論	2	2	22	20(1)	24	33	
	人間関係論	2	1	39	40	21		
	観光論	2	2	72	49	38	41(1)	
	ホテル論	2	1	51(2)	37	38		
専門演習	専門演習	2	2	77	59	42	48	
卒業研究	卒業研究	2	2	77	60	46	43	

(国際コミュニケーション学科開講分)

区分	科目	単位数	年次	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
領域共通	国際コミュニケーション概論	2	1	69				
	日本文化論	2	1	94(24)				
	中国文化論	1	1	39				
	グローバル化論	2	1	80(15)				
	サステナブル社会論	2	1	55				
	多文化共生社会論	2	2					
	観光概論	2	2					
	第二言語習得論	2	2					
	地域研究概論	2	2					
	比較宗教学	2	2					
	ホテル論	2	2					
	英語コミュニケーションⅠ	1	1	50				
	英語コミュニケーションⅡ	1	1	42				
	英語表現Ⅰ	1	2					
	英語表現Ⅱ	1	2					
	検定英語演習Ⅰ	1	1	52				
	検定英語演習Ⅱ	1	2					

	初級中国語Ⅰ	1	1	42			
	初級中国語Ⅱ	1	1	40			
	初級韓国語Ⅰ	1	1	55			
	初級韓国語Ⅱ	1	1	34			
	日本語表現法Ⅰ	1	1	49			
	日本語表現法Ⅱ	1	1	23			
	フランス語Ⅰ	1	1	21			
	フランス語Ⅱ	1	1	13			
	情報・統計処理	1	1	63			
	AIプログラミング基礎	1	2				
	海外言語・文化演習(英語圏)	1	1	12			
	海外言語・文化演習(中国語圏)	1	1	4			
	海外言語・文化演習(韓国)	1	1	8			
	産業・地域振興人材研修	1	1	5			
	地域実践演習	2	2				
現代社会領域	社会調査論	2	1	21			
	近現代の世界	2	1	45			
	国際関係概論	2	2				
	現代企業事情	2	2				
	世界が見る日本	2	2				
	地域振興論	2	2				
	国際協力論	2	2				
文化交流領域	英語圏文化・社会	2	1	31			
	アジア文化論	2	1	30			
	韓国文化論	1	1	35			
	ヨーロッパ文化論	2	2				
	中国文化受容論	2	2				
	異文化コミュニケーション	2	2				
	英語表象文化	2	2				
	文化交流論	2	2				
英語領域	English Conversation	1	1	29			
	English Discussion	1	2				
	English Presentation	1	2				
	メディアイングリッシュⅠ	1	1	26			
	メディアイングリッシュⅡ	1	2				
	メディアイングリッシュⅢ	1	2				
	パラグラフライティング	1	1	33			
	エッセイライティング	1	2				
	アカデミックライティング	1	2				
	インテンシブリーディング	1	1	25			
	アドバンストリーディング	1	2				
	観光英語	1	2				
	英語コミュニケーション論	2	2				
	英米文学	2	2				
東アジア言語領域	中国語(文法・読解)	1	1	14			
	中国語(会話)	1	2				
	観光中国語	1	2				
	現代中国論	2	2				
	韓国語(文法・読解)	1	1	18			
	韓国語(会話)	1	2				
	観光韓国語	1	2				

現代韓国論	2	2					
日本語教授基礎理論	2	1	39				
「やさしい日本語」作文	1	2					
日本文学概論	2	2					

(授業の成果 GPA の状況 国際コミュニケーション学科) 留年生を除く

区分	区分	入学年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	GPA 平均点	1 年生	2.76	2.93	2.64		
		2 年生	2.73	2.98	2.85		
		総合	2.70	2.95	2.74		
		基準最高点	4.0	4.0	4.0	4.0	
(国際文化)	GPA 平均点	1 年生	2.98	3.12	2.83		
		2 年生	2.98	2.99	2.95		
		総合	2.97	3.05	2.89		
		基準最高点	4.0	4.0	4.0	4.0	
国際コミュニケーション	GPA 平均点	1 年生					
		2 年生					
		総合					
		基準最高点				4.0	

※留年生(休学者)、留学者を除く

(学外授業等の状況 国際コミュニケーション学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	学外授業(見学)	1	1	1	1	0	
	海外研修	1	0	0	1	0	
	地域連携授業	0	0	0	1	2	
(国際文化)	学外授業(見学)		1	3	1	0	
	海外研修		0	0	1	2	
	地域連携授業		2	2	3	2	
国際コミュニケーション	学外授業(見学)					1	
	海外研修					3	
	地域連携授業					0	

※学生が参加する授業

## 2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 国際コミュニケーション学科) 単位：人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	卒業予定者	61	48	53	35	26	
	就職希望者(就職率)	40(100%)	30(100%)	33(97.0%)	18(100%)	16(93.8%)	
	進学希望者(進学率)	21(90.5%)	14(71.4%)	19(94.7%)	16(100%)	8(87.5%)	
	未進路者	0	4	1	1	4	
	休学者	8	8	3	4	2	
	復学者	4	7	6	2	3	
	留年者	2	1	1	4	2	
	退学・除籍者	2	1	1	1	0	
(国際文化)	卒業予定者		77	60	37	43	
	就職希望者(就職率)		50(98.0%)	47(95.7%)	26(96.3%)	25(100%)	
	進学希望者(進学率)		27(55.6%)	7(100%)	10(60.0%)	17(64.7%)	
	未進路者		0	6	1	7	
	休学者		1	1	2	2	
	復学者		3	1	1	0	
	留年者		0	0	4	3	
	退学・除籍者		0	0	3	1	
国際コミュニケーション	卒業予定者						
	就職希望者(就職率)						
	進学希望者(進学率)						
	未進路者						
	休学者					0	
	復学者					0	
	留年者					0	
	退学・除籍者					2	

(語学系 検定等の取得状況 国際コミュニケーション学科)

学科	区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	TOEIC 平均点	入学年度	455点	410点	412点	485点	397点	
		卒業年度	600点	547点	525点	619点	544点	
		上昇点数	145点	137点	113点	134点	147点	
	実用英語 技能検定	準1級	1人	1人	2人	2人	1人	
		2級	55人	40人	41人	26人	14人	
		2級以上取得率	93.3%	85.4%	81.1%	77.1%	62.5%	
(国際文化)	中国語検定	2級		1人	0人	0人	0人	
		3級		3人	3人	3人	3人	
		4級		2人	1人	5人	7人	
		準4級		16人	16人	13人	12人	
	HKS 漢語水平考試	6級		0人	0人	1人	0人	
		5級		7人	0人	3人	0人	
		4級		3人	0人	2人	3人	
		2級		1人	0人	0人	0人	
	ハングル検定	準2級		1人	0人	0人	0人	
		3級		1人	0人	1人	0人	
		4級		0人	0人	0人	0人	
		5級		0人	0人	1人	0人	
	TOPIK 韓国語能力試験	6級		1人	0人	0人	0人	
		5級		0人	2人	1人	4人	
		4級		0人	1人	1人	0人	

		3級		1人	0人	0人	0人
		2級		0人	1人	1人	1人
国際コミュニケーション	TOEIC 平均点	入学年度					449点
		卒業年度					未定
		上昇点数					未定
	実用英語 技能検定	準1級					0人
		2級					0人
		2級以上取得率					%
	中国語検定	2級					0人
		3級					0人
		4級					3人
		準4級					0人
	HKS 漢語水平考試	6級					0人
		5級					0人
		4級					1人
		3級					1人
		2級					0人
	ハングル検定	準2級					0人
		3級					0人
		4級					0人
		5級					0人
	TOPIK 韓国語能力試験	6級					0人
5級						0人	
4級						2人	
3級						1人	
2級						1人	

(情報系 検定等の取得状況 国際コミュニケーション学科) ( )は受験者に対する合格率

学科	区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	
(英語英文)	情報処理 技能検定 (表計算)	1級	1人 (100%)	4人 (57.1%)	0人 (0%)	1人 (50%)	1人 (50%)		
		準1級	6人 (100%)	12人 (75.0%)	3人 (75.0%)	0人 (0%)	0人 (0%)		
		2級	28人 (93.3%)	23人 (76.6%)	11人 (55.0%)	24人 (96.0%)	0人 (0%)		
	日本語 ワープロ検定	1級	3人 (60.0%)	4人 (80.0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)		
		準1級	4人 (100%)	2人 (40.0%)	3人 (75.0%)	0人 (0%)	0人 (0%)		
		2級	15人 (57.7%)	18人 (51.4%)	11人 (55.0%)	11人 (42.3%)	11人 (43.5%)		
	(国際文化)	情報処理 技能検定 (表計算)	1級		3人	10人	0人	0人 (0%)	
			準1級					0人 (0%)	
			2級		29人	33人	0人	0人 (0%)	
情報処理 技能検定 (データベース)		1級		1人	0人	0人	0人 (0%)		
		2級		0人	0人	0人	0人 (0%)		
日本語 ワープロ検定		1級		2人	4人	0人	0人 (0%)		
		準1級		2人	4人	0人	0人 (0%)		

	2級		12人	9人	0人	0人 (0%)
	準2級		29人	18人	0人	0人 (0%)
	ホームページ 検定	1級	10人	7人	0人	0人 (0%)
	文書デザイン 検定	1級	6人	17人	0人	0人 (0%)
		2級	0人	0人	0人	0人 (0%)
	プレゼンテーション 検定	1級	4人	13人	0人	0人 (0%)
国際コミュニケーション	情報処理 技能検定 (表計算)	1級				0人 (0%)
		準1級				0人 (0%)
		2級				0人 (0%)
	情報処理 技能検定 (データベース)	1級				0人 (0%)
		2級				0人 (0%)
	日本語 ワープロ検定	1級				0人 (0%)
		準1級				0人 (0%)
		2級				0人 (0%)
		準2級				0人 (0%)
	ホームページ 検定	1級				0人 (0%)
	文書デザイン 検定	1級				0人 (0%)
		2級				0人 (0%)
	プレゼンテーション 検定	1級				0人 (0%)
	ITサポート					1人 (100%)

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 国際コミュニケーション学科)

学科	項目	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	増した	45.8%	65.2%	67.4%	70.6%	61.5%	
	少し増した	42.4%	28.3%	28.3%	26.5%	38.5%	
	あまり変わらない	11.9%	6.5%	4.3%	2.9%	0%	
(国際文化)	増した		45.5%	35.0%	68.4%	60.0%	
	少し増した		44.2%	46.7%	26.3%	37.5%	
	あまり変わらない		10.4%	18.3%	5.3%	2.5%	
国際コミュニケーション	増した						
	少し増した						
	あまり変わらない						

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 国際コミュニケーション学科) 単位:人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(英語英文)	定員(充足率)	50(100)	50(100)	50(74.0)	50(52.0)			
	入学者(志願者)	50(136)	50(122)	37(83)	26(66)			
	総合型選抜	11(15)	14(17)	10(10)	6(6)			
	学校推薦型選抜	7(8)	9(10)	11(12)	6(6)			
	社会人等選抜	0(0)	0(1)	0(0)	0(1)			
	一般選抜	41(113)	27(94)	14(61)	14(53)			
(国際文化)	定員(充足率)	60	60(100)	60(71.7)	60(73.3)			
	入学者(志願者)		60(157)	43(89)	44(78)			
	総合型選抜		5(8)	3(4)	11(11)			
	学校推薦型選抜		31(40)	19(19)	17(17)			
	社会人等選抜		0(0)	0(0)	0(0)			
	一般選抜		24(109)	21(66)	16(50)			
国際コミュニケーション	定員(充足率)					90(71.1)	90(55.6)	
	入学者(志願者)					64(112)	50(83)	
	総合型選抜					15(15)	22(23)	
	学校推薦型選抜					27(27)	13(13)	
	社会人等選抜					0(0)	0(0)	
	一般選抜					22(70)	15(47)	

(広報活動の状況 国際コミュニケーション学科) 単位:件 オープンキャンパスは学園祭除く

	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2024)	R6 (2025)
(英語英文)	オープンキャンパス	78人/1回	37人/2回	61人/3回			
	進学ガイダンス	8会場	3会場	3会場			
	高校訪問	15校	24校	19校			
	SNS投稿(YouTube)	0件	0件	1件			
	SNS投稿(Instagram)	0件	0件	14件			
(国際文化)	オープンキャンパス	138人/2回	51人/2回	73人/3回			
	進学ガイダンス	9会場	2会場	10会場			
	高校訪問	2校	0校	22校			
	SNS投稿(YouTube)	0件	0件	1件			
	SNS投稿(Instagram)	0件	0件	4件			
国際コミュニケーション	オープンキャンパス				132人/3回	97人/3回	
	進学ガイダンス				6会場	8会場	
	高校訪問				17校	40校	
	SNS投稿(YouTube)				4件	4件	
	SNS投稿(Instagram)				27件	46件	

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 国際コミュニケーション学科) 複数回答可

学科	理由	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(英語英文)	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける	12.0%	13.5%	10.5%			
	資格をとる	8.0%	11.7%	15.8%			
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラム	25.6%	22.5%	19.7%			
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができる	20.0%	24.3%	22.4%			
	卒業後の就職に有利	8.0%	7.2%	7.9%			
	公立	26.4%	20.7%	23.7%			
(国際文化)	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける	11.9%	19.1%	16.8%			
	資格をとる	13.6%	10.3%	13.6%			
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラム	24.4%	25.0%	28.8%			
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができる	13.6%	14.0%	16.0%			
	卒業後の就職に有利	11.4%	5.2%	4.0%			
	公立	25.0%	25.7%	20.8%			
国際コミュニケーション	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける				14.7%	14.7%	
	資格をとる				10.9%	11.6%	
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラム				25.6%	31.6%	
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができる				15.4%	15.8%	
	卒業後の就職に有利				7.1%	5.3%	
	公立				26.3%	20.0%	

4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 国際コミュニケーション学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	公開講座	2	0	3	1		
	出前・出張講座	0	2	0	0		
	地域連携活動	0	0	0	0		
	行政等審議会議員派遣	0	0	0	0		
(国際文化)	公開講座		0	1	2		
	出前・出張講座		2	1	0		
	地域連携活動		1	1	1		
	行政等審議会議員派遣		1	2	3		
国際コミュニケーション	公開講座					3	
	出前・出張講座					3	
	地域連携活動					3	
	行政等審議会議員派遣					2	

5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 国際コミュニケーション学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(英語英文)	科研費採択	1	1	1	3		
	奨学寄附金採択	0	0	0	0		
(国際文化)	科研費採択		4	2	3		
	奨学寄附金採択		0	0	1		
国際コミュニケーション	科研費採択					2	
	奨学寄附金採択					0	

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	健康栄養学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

<p>カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨</p>	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士養成課程の法令に定められた教養教育科目と専門科目を基本にカリキュラムを構成しています。医療・福祉分野に必要な知識と技術を身につけ、病院・福祉施設での栄養改善、疾病の治療に貢献できる医療・福祉領域と、健康と食をつなぐ食品について幅広く学び、食に関連する多彩な地域活動を通して実践力を養う食環境領域の2領域があります。1年生の後期から、医療・福祉領域と食環境領域に分かれて修学します。</li> <li>1. 1年後期から分かれる領域のために、前期に、栄養士の仕事内容等について学べる「専門基礎演習」を開講し、学生が自ら領域を選択できるように配慮します。</li> <li>2. 栄養士に必要な課題解決能力やコミュニケーション能力、協調性を身につけます。前期・後期を通して、「栄養士実習」を開講し、さらなる自己研鑽を積む機会を設けます。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の要請に沿った質の高い栄養士の人材育成を目指します。医療・福祉領域、食環境領域の2領域とし、次に掲げる資質・能力を身につけた人材に対して、「短期大学士（健康栄養学）」の学位を授与します。</li> <li>1. 栄養士の役割を理解し、高い倫理観と強い責任感・使命感をもって、行動できる。</li> <li>2. 「健康・栄養・食」に関わる課題に対して、専門的知識および技術をもって、解決方法を探究できる。</li> <li>3. 豊かな人間性をもって、他者と円滑なコミュニケーションができる。</li> <li>4. 栄養の専門家として、生涯にわたり自律的に学び自己研鑽できる。</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士免許取得を目指す者を受け入れ、その者に対して栄養士になるための教育を施すことを基本方針としています。栄養士は食と栄養の専門家として専門性を発揮し、国民の栄養改善、健康増進、疾病予防など重要な役割を担い、国民の医療費削減に貢献することが期待されています。「健康・栄養・食」に関わる諸問題に関心がある者の入学を求めています。将来、栄養士となり、人々の健康・医療・福祉のために貢献したい強い意志を持っている学生を歓迎します。</li> </ul>
<p>現状説明</p>	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを策定し、授業を実施した。【受講者数】</li> <li>・GPA 平均 2.61 (R4 卒業生は 2.65) 【GPA の状況】</li> </ul> <p>→ シラバスの記載内容を学科会議で点検し、ポリシーとの整合性を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶ能力を高めるため、コンソーシアム岐阜の地域課題解決提案事業に参画した。</li> <li>・学生の領域選択を支援するため、専門教育科目「専門基礎演習(オムニバス形式)」のなかで、医療・福祉と食品企業・行政の職域に従事する(管理)栄養士の講師から、各領域における栄養士の将来像を学生に講義した。</li> </ul>

	<p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・58人に短期大学士を授与した。【卒業生の状況】</li> <li>・栄養士免許取得者は、51人(R4は36人)。【栄養士免許の取得状況】</li> <li>・主体的な学びの関心度は、89.5%(R4は94.6%)【卒業時アンケート】</li> </ul> <p>→・卒業生アンケート結果を学科会議で共有・検討するとともに、学科長が所属教員に必要な指示をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学者や退学者を減らすため、学生の学修生活状況に応じて、面談や補講を実施した。</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R6入学生は、52人(志願者73人)【入学生の状況】</li> <li>・本学科を希望した理由の第1位は、「資格がとれる」(R5は「資格がとれる」)【新入生アンケート】→・入学選抜方法を見直した。</li> </ul> <p><b>学生満足度を向上する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオの本格実施により、学生1人ひとりの学修の方向性や進路を把握することで、学生の現状確認を支援できた。</li> </ul> <p><b>その他の教学の内部質保証の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議で授業アンケート結果を各教員と共有し、学科長が必要に応じて該当教員に指示をした。</li> </ul> <p><b>R5学長方針事項「地域連携/DSセンター、SPARC事業に参加すること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議で活動状況を適時情報共有し、参画を推奨した。</li> <li>・地域連携センター事業を活用し、所属教員が調整し、学生を参画させる機会を提供することで、主体的な学修の機会と地域課題に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>R5学長方針事項「学科活動を公表すること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科活動を公表するため、ぎふメディアコスモスで教員活動をパネル展示した。</li> </ul>
--	---

**(令和5年度重点目標の達成状況)**

重点目標	1. 新学科の定員50名を確保する。
達成状況	1. 52名で目標を達成できた。充足率104%(R5は88.0%)【入学生の状況】
改善事項及び成果	<p>1-1. 学科Webサイト、YouTube、Instagramの活用。【広報活動の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習状況など栄養士をイメージできる動画・写真を配信した。</li> </ul> <p>→・Instagramの更新回数は昨年度と比べて倍増したが、閲覧回数が把握できないので、成果のほどはわからない。</p> <p>1-2. オープンキャンパス・高校訪問の実施、進学ガイダンスへの参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他学科とも調整し、実績校や専門高校を訪問した。</li> </ul> <p>→・情報収集様式を統一し、情報を学科内で共有できた。</p> <p>1-3. 学科ニュースレターの発行。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスに合わせて4回発行した。</li> </ul> <p>→・学科の最新の活動状況がわかると好評であった。</p> <p>1-4. 入学選抜方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜を併願、既卒者を可とした。</li> <li>・一般選抜(共通テスト利用)の必須科目の「英語」を選択科目とした。</li> </ul> <p>→・既卒者の出願者が増えた。</p>
根拠資料	【統計資料】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員充足を維持する。</li> </ul> <p>→・入学選抜方法の変更情報が遅かったと考えるため、早期に多様な媒体を利用して周知していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科及び教員の教育・研究・地域連携活動力の情報量が足りなかったと考えるため、活動の魅力化・特色化を進める。</li> </ul>

**(令和6年度重点目標と方策)**

重点目標	1. 健康栄養学科の入学定員 50 名を確保する。
方策	1-1. 学科 Web サイト、YouTube、Instagram の活用 1-2. オープンキャンパス・高校訪問の実施、進学ガイダンスへの参加 1-3. 学科ニュースレターの発行

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(健康栄養学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

(食物栄養学科開講分)

分野	授業科目	単位数	年次	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
社会生活と健康	公衆衛生学	2	2	58	52	37	58	
	社会福祉概論	2	2	57	52	37	56	
人体と構造と機能	解剖学	1	1	54	38	58		
	生理学Ⅰ	1	1	54	38	58		
	生理学Ⅱ	2	2	57	52	37	55	
	解剖生理学実験	1	2	57	52	38	57	
	生化学Ⅰ	2	1	54	38	58		
	生化学Ⅱ	2	2	57	52	38	58	
	生化学実験	1	1	54	38	58		
	老年学	2	2	21	28	4	16	
病態病理学	2	2	27	15	11	26		
食品と衛生	食品学	2	1	54	41	60		
	食品学実験	1	1	54	41	60		
	食品加工学	2	2	58	52	37	59	
	食品加工学実習	1	2	57	52	37	54	
	食品衛生学	2	2	58	52	37	58	
	食品衛生学実験	1	2	57	52	37	54	
	食品微生物学	2	1	54	38	54		
	食品品質管理論	2	2	55	49	23	32	
食品流通論	1	2	31	18	20	35		
栄養と健康	基礎栄養学	2	1	54	41	60		
	栄養学実験	1	1	54	41	60		
	応用栄養学	2	1	54	42(1)	60		
	応用栄養学実習	1	1	54	38	30		
	栄養管理論	1	2	58	52	38	57	
	臨床栄養学Ⅰ	2	1	54	38	58		
	臨床栄養学Ⅱ	1	2	58	52	38	57	
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	2	57	52	38	56	
臨床栄養学実習Ⅱ	1	2	57	52	37	54		
栄養と指導	栄養指導論	2	1	54	41	60		
	栄養指導論実習Ⅰ	1	1	54	38	58		
	栄養指導論実習Ⅱ	1	2	57	52	37	54	
	栄養教育論	2	2	58	52	38	57	
	公衆栄養学概論	2	2	58	52	38	59(1)	
	栄養情報処理実習	1	1	54	38	58		
	栄養士特論	2	1	52	38	55		
カウンセリング論	2	2	56	42	34	52		
給食の運営	調理学	2	1	55	41	60		
	調理学実習	1	1	54	41	60		
	給食管理	2	1	54	41	60		
	給食管理実習Ⅰ	1	1	54	38	58		
	給食管理実習Ⅱ	1	2	57	52	38	56	
基礎化学	基礎実験化学	2	1	52	41	59		
卒業研究	卒業研究	2	2	57	52	38	57	

## (健康栄養学科開講分)

区分	科目	単位数	年次	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
社会生活と健康	公衆衛生学	2	2					
	社会福祉概論	2	2					
	メンタルヘルス	1	1	21				
	情報・統計処理	1	1	43				
人体の構造と機能	女性の健康科学	2	1	43(1)				
	解剖生理学	2	1	43				
	生化学	2	1	45				
	生化学実験	1	2					
	身体運動科学	2	2					
	身体の科学	2	2					
	病理学	1	2					
	運動科学実験	1	2					
食品と衛生	食品学	2	1	43				
	食品学実験	1	1	43				
	食品加工学	1	1	21				
	食品加工学実験	1	2					
	食品衛生学	1	1	54(1)				
	食品衛生学実験	1	2					
	食品機能学	2	1	51(9)				
栄養と健康	基礎栄養学	1	1	49(6)				
	栄養学実験	1	1	43				
	ライフステージ栄養学Ⅰ	1	1	82(39)				
	ライフステージ栄養学Ⅱ	2	2					
	ライフステージ栄養学実習	2	1	42				
	栄養管理論	1	2					
	栄養管理実習	2	2					
	臨床栄養学	1	1	43				
	臨床栄養学実習	1	2					
栄養の指導	栄養指導論	2	1	43				
	栄養指導論実習	1	2					
	地域食文化論	2	1	43				
	公衆栄養学概論	2	2					
	栄養士実習	1	2					
給食の運営	調理学	2	1	43				
	調理学実習	1	1	42				
	給食管理	2	1	43				
	給食管理実習Ⅰ	1	1	42				
	給食管理実習Ⅱ	1	2					
	給食管理実習Ⅲ	1	2					
通年	専門基礎演習	2	1	42				
	地域実践演習(卒業研究)	2	2					

(授業の成果 GPA の状況 健康栄養学科) 留年生、留学生を除く

学科	区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	GPA 平均点	1 年生	2.26	2.69	2.83	2.47		
		2 年生	2.53	2.72	2.70	2.79		
		総合	2.38	2.70	2.78	2.61		
		基準最高点	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
健康栄養		1 年生						
		2 年生						
		総合						
		基準最高点					4.0	

※留年生(休学者)、留学生を除く

(学外授業等の状況 健康栄養学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	学外授業(見学)	3	0	3	3	4	
	海外研修	0	0	0	0	0	
	地域連携授業	2	2	2	1	3	
健康栄養	学外授業(見学)					0	
	海外研修					0	
	地域連携授業					1	

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 健康栄養学科) 単位：人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	卒業予定者	59	58	52	37	58	
	就職希望者(就職率)	52 (98.1%)	54 (92.6%)	42 (100%)	36 (97.2%)	44 (97.7%)	
	進学希望者(進学率)	6 (100%)	3 (100%)	9 (88.9%)	1 (100%)	11 (90.9%)	
	未進路者	1	1	1	1	5	
	休学者	0	1	0	4	1	
	復学者	1	0	0	2	2	
	留年生	0	2	0	3	1	
	退学・除籍者	1	1	0	2	1	
健康栄養	卒業予定者						
	就職希望者(就職率)						
	進学希望者(進学率)						
	未進路者						
	休学者					0	
	復学者					0	
	留年生					0	
	退学・除籍者					2	

(栄養士免許の取得状況 健康栄養学科) 単位：人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	卒業生	59	58	52	37	58	
	栄養士免許取得	58	57	52	36	51	
	栄養士業務従事者	19	28	31	21	21	
	管理栄養士免許取得	15	12	20	10	10	
健康栄養	卒業生						
	栄養士免許取得						
	栄養士業務従事者						
	管理栄養士免許取得						

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 健康栄養学科)

学科	項目	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	増した	62.1%	50.9%	54.0%	62.2%	66.7%	
	少し増した	36.2%	43.9%	34.0%	32.4%	22.8%	
	あまり変わらない	1.7%	5.3%	12.0%	5.4%	10.5%	
健康栄養	増した						
	少し増した						
	あまり変わらない						

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 健康栄養学科) 単位：人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(食物栄養)	定員(充足率)	60(100)	60(90.0)	60(66.7)	60(96.7)			
	入学者(志願者)	60(120)	54(104)	40(74)	58(92)			
	総合型選抜			15(17)	28(29)			
	学校推薦型	29(39)	24(26)	13(13)	11(11)			
	社会人等選抜	1(1)	0(0)	1(1)	2(2)			
	一般選抜	30(80)	30(78)	11(43)	17(50)			
健康栄養	定員(充足率)					50(88.0)	50(104)	
	入学者(志願者)					44(80)	52(73)	
	総合型選抜					13(13)	22(24)	
	学校推薦型					12(12)	15(15)	
	社会人等選抜					1(2)	2(2)	
	一般選抜					18(53)	15(34)	

(広報活動の状況 健康栄養学科) 単位：件 オープンキャンパスは学園祭除く

	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2024)	R6 (2025)
(食物栄養)	オープンキャンパス	76人/2回	64人/2回	107人/3回			
	進学ガイダンス	11会場	2会場	11会場			
	高校訪問	0校	1校	20校			
	SNS投稿(YouTube)	0件	0件	4件			
	SNS投稿(Instagram)	0件	0件	1件			
健康栄養	オープンキャンパス				70人/3回	101人/3回	
	進学ガイダンス				6会場	5会場	
	高校訪問				25校	28校	
	SNS投稿(YouTube)				3件	5件	
	SNS投稿(Instagram)				33件	56件	

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 健康栄養学科) 複数回答可

学科	項目	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(食物栄養)	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける	18.4%	22.3%	16.5%			
	資格をとる	23.3%	22.3%	25.2%			
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムである	14.1%	20.1%	22.1%			
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができる	12.9%	7.9%	9.5%			
	卒業後の就職に有利	4.9%	6.5%	0.8%			
	公立	24.5%	20.9%	25.2%			
健康栄養	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける				23.3%	21.3%	
	資格をとる				26.2%	23.0%	
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムである				13.6%	18.0%	
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができる				11.7%	12.3%	
	卒業後の就職に有利				3.9%	2.5%	
	公立				21.4%	22.9%	

4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 健康栄養学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	公開講座	2	0	3	3		
	出前・出張講座	1	1	0	2		
	地域連携活動	1	1	2	2		
	行政等審議会員派遣	7	8	7	12		
健康栄養	公開講座					4	
	出前・出張講座					3	
	地域連携活動					4	
	行政等審議会員派遣					16	

5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 健康栄養学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(食物栄養)	科研費採択	0	0	0	0		
	奨学寄附金採択	0	0	1	0		
健康栄養	科研費採択					4	
	奨学寄附金採択					2	

## 自己評価等報告書

## (評価対象)

実施機関名	デザイン環境学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学科共通の教養教育科目と、本学科での専門教育科目によってカリキュラムを構成しています。1年次前期は学科全体に共通する領域共通教育を行い、1年次後期から専門領域に特化した領域専門教育へ移行します。また以下の方針に基づいて領域共通教育と領域専門教育の課程を編成・実施します。</li> <li>1. デザイン全般において必要不可欠な能力を養う「基礎科目」と、各領域の内容を見渡すことができる知識を習得する「領域基礎科目」を設定し、実践的な地域活動を通し、創造力や思考力を養います。</li> <li>2. 領域固有の知識と技術を体系的に身につける「領域科目」を設定し、各領域では専門分野毎に体系的に能力・技術を身につけることができる科目構成とします。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の実現のため「自然環境との共生」「素材から取り組む本物志向」「人々を動かす力の向上」を軸に、デザインの思想や意義と地域産業への理解を深め、共感と協調に基づいて社会生活における諸課題を解決する能力を身につけた人材の育成を目指します。そのために必要な専門分野をファッション、建築・インテリア、ヴィジュアル・情報の3領域とし、領域を横断しながら学ぶことを教育目標とします。この目標を満たし、各領域の定める具体的資質を身につけた人材に対し「短期大学士（デザイン環境学）」の学位を授与します。</li> <li><b>ファッション領域</b>：高品質な素材縫製技術による「本物志向」の教育を通して持続可能なファッション文化の実現を目標に、地域の繊維産業と連携しながら素材・製造・販売までの実践的な能力を身につける。</li> <li><b>建築・インテリア領域</b>：自然環境との共生を再認識し、産官学連携による実践的な地域活動に積極的に取り組む中で、持続性のある建築・地域づくりに貢献する。</li> <li><b>ヴィジュアル・情報領域</b>：ビジュアルコミュニケーションを効果的に学修するため、従来の視覚情報について学ぶとともに、現代社会に適した情報科学を学び、創造的な取り組みを実践する。</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に関わる必要かつ重要なデザインの発想および提案を基盤とした教育を行います。持続可能な社会の実現において、様々な問題を解決するために、デザインの中でも、ファッション、建築・インテリア、ヴィジュアル・情報の分野に関する知識・能力を身につけて社会に貢献したいという強い意志を持った者の入学を求めています。地域との連携による実践的な取り組みに積極的に参画する意欲をもった学生を歓迎します。</li> </ul>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを策定し、授業を実施した。【受講者数】</li> <li>・GPA平均は、2.90(R4卒業生は2.65)【GPAの状況】</li> </ul> <p>→・シラバスの記載内容を学科会議で点検し、ポリシーとの整合性を確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶ能力を高めるため、コンソーシアム岐阜の地域課題解決提案事業に参画した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の領域選択を支援するため、ガイダンスを実施した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・57人に短期大学士を授与した。【卒業生の状況】</li> <li>・能力を自己点検するため検定等を奨励した。【検定等の取得状況】</li> <li>・主体的な学びの関心度は、92.9%(R4は94.8%)【卒業時アンケート】</li> </ul> <p>→・卒業生アンケート結果を学科会議で共有・検討するとともに、学科長が所属教員に必要な指示をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学者や退学者を減らすため、学生の学修生活状況に応じて、面談や補講を実施した。</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R6入学生は、51人(志願者83人)【入学生の状況】</li> <li>・本学科を希望した理由の第1位は、「学びたい環境・カリキュラムがあるから」(R5は「学びたい環境・カリキュラムがあるから」)【新入生アンケート】</li> </ul> <p>→・入学選抜方法を見直した。</p> <p><b>学生満足度を向上する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオの本格実施により、学生1人ひとりの学修の方向性や進路を把握することで、学生の現状確認を支援できた。</li> </ul> <p><b>その他の教学の内部質保証の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議で各教員の担当科目を授業アンケートなどのデータを活用しPDCAサイクルにて改善の取組みを行った。</li> <li>・学科個別のアンケートを入学時と卒業時に行い、改善が必要な科目や学科の取組みを洗い出し、検討した。</li> </ul> <p><b>R5 学長方針事項「地域連携/DSセンター、SPARC事業に参加すること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携センター事業を活用し、所属教員が調整し、学生を参画させる機会を提供することで、主体的な学修の機会と地域課題に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>R5 認証評価機関指摘事項「他専修(領域)単位互換制度を明文化すること」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所属する領域以外の履修科目を、卒業単位として取り扱うことを学生便覧に明記し、学修規程別表に他領域単位互換科目の欄を追記した。</li> </ul> <p>→・1年後期(R4以前においては入学時に配属となった領域(専修)以外の科目の受講を可能とし卒業単位とすることで、所属する領域(専修)以外の専門知識の取得を促し、デザインに関する分野横断型の能力を育成するとともに、専門分野の適性を見直しを可能とする。対象となる科目や受講形態などの検討を行い、運用の準備を行い、履修期前のガイダンスで学生に説明した。</p>
--	--

**(令和5年度重点目標の達成状況)**

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受験生の確保</li> <li>2. 新学科体制の充実</li> <li>3. 休退学者の対策</li> <li>4. 進路支援の充実</li> <li>5. 地域貢献</li> </ol>
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定員60名⇒51名入学。</li> <li>2. シラバス、時間割編成等を作成した。</li> <li>3. 休学3人(R4は6人)、留年4人(R4は3人)、退学1人(R4は5人)</li> <li>4. 就職内定率98.2%(R4は100%)、進学率88.9%(R4は100%)</li> <li>5. CeNCER関連事業の他、学科独自の連携事業を実施した。</li> </ol>
改善事項及び成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進学ガイダンスの積極的・戦略的な参加、高校訪問や高校連絡に全体制で取組み、特に岐阜市内の高校との連携を強化・オープンキャンパスや広報を充実</li> <li>・総合型選抜を併願、既卒者を可とし、スクーリングを任意とした。</li> <li>・一般選抜(個別試験)の必須科目の「口頭試問」を廃止した。</li> </ol>

	<p>→・情報収集様式を統一し、情報を学科内で共有できた。</p> <p>2. 学生の満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時に満足度調査を毎年実施し、集計結果から改善点を検討した。</li> </ul> <p>→・授業や学生生活に8割以上が満足していると回答。学科会議で共有・検討するとともに、学科長が所属教員に必要な指示をした。</p> <p>3. ポートフォリオも活用し手厚い対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人ひとり時間をかけて丁寧に話を聞いた。</li> </ul> <p>→・各個人の目指す就職や進学を聞き、適切なアドバイスをした。</p> <p>4. 学生の希望の職種に就職または進学100%を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任やゼミ担当教員、ポートフォリオのアドバイザーなど複数の教員が普段から相談に乗り就職先や進学先を斡旋した。</li> </ul> <p>→・過年度生が数人まだ決まっていないが、その他の学生は100%決まった。</p> <p>5. 既存の連携+新規案件</p> <p>→・全員が何らかの形で連携を行った。</p>
根拠資料	【統計資料】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員を充足する。</li> </ul> <p>→・入学選抜方法の変更情報が遅かったと考えるため、早期に多様な媒体を利用して周知していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科及び教員の教育・研究・地域連携活動力の情報量が足りなかったと考えるため、活動の魅力化・特色化を進める。</li> </ul>

**(令和6年度重点目標と方策)**

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザイン環境学科の定員を充足する。</li> <li>2. 休退学者をなるべく減らす。</li> <li>3. 進路支援の充実</li> <li>4. 地域貢献の質の向上</li> </ol>
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進学ガイダンス、高校訪問、高校連絡をおこない、授業の中身を魅力的にする。</li> <li>2. 学生に寄り添って相談する。</li> <li>3. 進路指導は随時行う。</li> <li>4. 学生にも負担がかかり過ぎないように、学生のためになる地域貢献を取捨選択する。</li> </ol>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(デザイン環境学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( ) は、他学科履修生の内数

(生活デザイン学科開講分)

分野	授業科目	単位数	年次	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
基礎科目	デザイン概論	2	1	61	47 (2)	69		
	色彩学	2	1	63	47	69		
	基礎造形	2	1	61	45	68		
	デッサン	2	1	52	38	50		
	生活材料学	2	1	33	22	19		
	ファッションデザイン論	2	1	32	14	11		
	建築・インテリア概論	2	1	32	24	49		
	インテリアデザイン論	2	1	39	18	30		
	美術・デザイン史	2	1	42	31	40		
	メディアデザイン論	2	1	31	31	36		
専修科目 (ファッション)	ファッションデザイン画	2	1		8	11		
	ファッションデザイン画 I	2	1	12				
	ファッションデザイン画 II	2	2	17	11			
	ファッションデザイン演習 I	2	1	12	8	10		
	ファッションデザイン演習 II	2	2	17	12	8	9	
	ファッション造形論	2	1	12	8	10		
	ファッション造形演習 I	2	1	12	8	10		
	ファッション造形演習 II	2	1	12	8	10		
	ファッション造形演習 III	2	2	10	12	8	7	
	ファッション造形演習 (和服)	2	2		0	2	4	
	パターンメイキング論	2	2	17	12	8	10	
	ドレーピング	2	1		8	10		
	ドレーピング I (基礎)	2	1	13 (1)				
	ドレーピング II (応用)	2	2	10	8			
	材料管理学	2	2	17	12	8	10	
	テキスタイル素材演習	2	2	17	12	8	10	
	染色デザイン演習	2	2		0	8	6	
	テキスタイル染色演習	2	2	17	12	8	10	
	ファッションビジネス論	2	1	12	8	12		
	ファッションマーケティング	2	1	12	8	10		
	アパレルマーチャンダイジング	2	2	17	12			
	ブランドマーチャンダイジング	2	2		0	8	10	
	ファッション販売論	2	2	7	4	4	1	
	服飾文化史	2	1	11	5	9		
	ファッション史概論	2	1		8	10		
	消費科学	2	2	17	12	8	10	
課題研究	2	1	12	8	10			
専修科目 (建築・インテリア)	建築・インテリア基礎製図	2	1	24	18	28		
	建築・インテリア設計演習 I	2	1	24	17	28		
	建築・インテリア設計演習 II	2	2	24	25	12	22	
	建築・インテリア設計演習 III	2	2	12	6	2	10	
	建築・インテリア CAD 演習	2	1	25	17	28		
	空間デザイン演習	2	2	17	10			
	建築プレゼンテーション演習	2	2		0	7	22	
	建築計画論	2	1	24	18	28		
	公共施設計画論	2	1		17	27		

	住生活論	2	2	24	25	10	14
	西洋建築史	2	2	24	25	9	20
	日本建築史	2	2	21	13	8	13
	建築材料学	2	1	24	18	28	
	一般構造	2	1	25	17	28	
	構造力学	2	1	25	17	28	
	構造力学演習	2	2	22	24	13	26
	構造計画	2	2	16	19	10	23
	建築環境学	2	1	24	17	28	
	建築設備学	2	1	24	17	28	
	施工と生産システム演習	2	2	24	25	16	
	施工と生産	2	2				27
	建築法規	2	2	24	25	17	27
	測量実習	2	2	24	24		
	測量演習	2	2			8	12
	インテリアディスプレイデザイン	2	2	29	26		
	インテリアデザイン演習	2	2		0	14	
	課題研究	2	1	25	17	24	
専修科目 (ヴィジュアル)	発想トレーニング	2	1	25	19	30	
	C G 演習	2	1	26(1)	21	33	
	映像機器論	2	1	25			
	映像表現論	2	2	16(1)	3(1)		
	映像表現 (実写)	2	2		0	4	5
	映像表現 (アニメーション)	2	2		0	0	11
	グラフィックデザイン I	2	1	25	19	30	
	グラフィックデザイン II	2	1	26	21	34	
	グラフィックデザイン III	2	2	25	23	15	34
	グラフィックデザイン IV	2	2	27	23	15	34
	イラストレーション I	2	1	25	19	30	
	イラストレーション II	2	1	25	22(1)	34	
	絵本・イラストレーション	2	2	25	23	4	10(1)
	コミュニケーションデザイン論 I	2	1	25	21	34	
	コミュニケーションデザイン論 II	2	2	25	23	15	34
	DTP 演習	2	2	26	17(2)	12	23
	Web デザイン	2	2	24	11(2)	11	17
	情報デザイン論	2	1	26	23(2)	34	
	デジタルデザイン表現	2	2	27	23	15	34
	パッケージデザイン	2	2		0	11	22
インテリアディスプレイデザイン	2	2	0				
インテリアデザイン演習	2	2		0		8	
課題研究	2	1	26	20	32		
展開科目	生活環境学	2	2	30(1)	11	18	18
	テキスタイルデザイン	2	2	9	15	5	27
	地域・環境デザイン論	2	2	12	17	7	19
	生活造形演習	2	2	23	12	5	19
	広告デザイン論	2	2	31	25(3)	7	4
卒業研究	卒業研究	4	2	68	60	42	72
	インターンシップ	2	1・2	0	3	1	0

## (デザイン環境学科開講分)

区分	科目	単位数	年次	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)
領域基礎	色彩学	2	1	81(22)				
	美術・デザイン史	2	1	76(17)				
	ファッションデザイン概論	2	1	59				
	建築・インテリア概論	2	1	79(20)				
	ヴィジュアルデザイン概論	2	1	63(4)				
	材料学	2	1	32(8)				
	日本建築史	2	1	20(1)				
岐阜学	地域産業論	2	2					
	地域産業計画演習	1	2					
領域共通基礎	デザイン環境演習Ⅰ	2	1	59				
	デザイン環境演習Ⅱ	2	1	59				
	情報・統計処理	1	1	56				
	発想トレーニング	2	1	59				
	サステイナブルデザイン	2	1	59				
ファッション領域	ファッションデザイン画	2	1	7				
	ファッション造形論	2	1	7				
	ファッション造形演習Ⅰ	2	1	7				
	ファッション造形演習Ⅱ	2	2					
	ファッション造形演習Ⅲ	2	2					
	ファッション造形演習Ⅳ	2	2					
	レーピング	2	1	7				
	繊維材料学	2	1	7				
	材料管理学	2	2					
	テキスタイル素材演習	2	2					
	テキスタイル染色演習	2	2					
	ファッションビジネス論	2	1	7				
	ファッションマーケティング	2	1	7				
	ブランドマーチャンダイジング	2	2					
	消費科学	2	2					
	ファッション史概論	2	1	7				
	ファッション造形実践演習	2	2					
	テキスタイル創造演習	2	2					
建築・インテリア領域	建築・インテリア設計演習Ⅰ	2	1	25				
	建築・インテリア設計演習Ⅱ	2	2					
	建築・インテリア設計演習Ⅲ	2	2					
	建築・インテリアCAD演習	2	1	25				
	建築プレゼンテーション演習	2	1	24				
	建築計画論	2	1	25				
	公共施設計画論	2	2					
	西洋建築史	2	1	38				
	建築材料学	2	1	18				
	一般構造	2	2					
	構造力学	2	2					
	構造力学演習	2	2					
	構造計画	2	2					
	建築環境学	2	1	25				
	建築設備学	2	1	25				
	バイオフィマティックデザイン	2	2					
	施工と生産システム演習	2	2					

	建築法規	2	2					
	測量演習	2	2					
	インテリアデザイン論	2	1	19				
	インテリアデザイン演習	2	2					
ビジュアル・情報 領域	グラフィックデザインⅠ	2	1	24				
	グラフィックデザインⅡ	2	2					
	グラフィックデザインⅢ	2	2					
	CG演習	2	1	24				
	メディアデザイン論	2	1	24				
	映像表現（実写）	2	2					
	映像表現（アニメーション）	2	2					
	イラストレーションⅠ	2	1	24				
	イラストレーションⅡ	2	2					
	絵本・イラストレーション	2	2					
	情報デザイン論	2	1	24				
	認知情報処理	2	1	5				
	ビジュアルリテラシー	2	1	13				
	ビジュアルデータサイエンス	2	2					
	コミュニケーションデザイン論Ⅰ	2	1	17				
	コミュニケーションデザイン論Ⅱ	2	2					
	DTP演習	2	2					
	Webデザイン	2	2					
	パッケージデザイン	2	2					
	デジタルファブリケーション演習	2	2					
デジタルファブリケーション演習	2	2						
	課題研究	2	1	55				
	地域実践演習（卒業研究）	4	2					
	他領域単位互換科目	2	2					

(授業の成果 GPA の状況 デザイン環境学科) 留年生を除く

学科	区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(生活デザイン)	GPA 平均点	1 年生	2.19	2.77	2.64	2.89		
		2 年生	2.34	2.67	2.78	2.93		
		総合	2.27	2.74	2.70	2.90		
		基準最高点	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
デザイン環境	GPA 平均点	1 年生						
		2 年生						
		総合						
		基準最高点					4.0	

※留年生(休学者)、留学者を除く

(学外授業等の状況 デザイン環境学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(生活デザイン)	学外授業(見学)	31	10	22	15	11	
	海外研修	1	0	2	0	0	
	地域連携授業	16	12	22	12	2	
デザイン環境	学外授業(見学)					7	
	海外研修					0	
	地域連携授業					3	

※学生が参加する授業

## 2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 デザイン環境学科) 単位：人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(生活デザイン)	卒業予定者	55	68	53	40	72	
	就職希望者(就職率)	47 (89.4%)	49 (98.0%)	45 (100%)	34 (100%)	57 (98.2%)	
	進学希望者(進学率)	5 (80.0%)	9 (100%)	5 (100%)	4 (100%)	9 (100%)	
	未進路者	3	10	3	2	7	
	休学者	4	2	0	6	0	
	復学者	0	3	1	3	2	
	留年者	1	3	3	3	0	
	退学・除籍者	1	0	4	5	0	
デザイン環境	卒業予定者						
	就職希望者(就職率)						
	進学希望者(進学率)						
	未進路者						
	休学者					3	
	復学者					0	
	留年者					4	
	退学・除籍者					1	

(検定等の取得状況 デザイン環境学科) ( )は受験者に対する合格率

区分	卒業年度	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
衣料管理士	2級	17人 (100%)	12人 (100%)	8人 (100%)	10人 (100%)	
ファッションビジネス能力検定	2級	10人 (50.0%)	3人 (42.9%)	11人 (73.3%)	0人 (0%)	
	3級	3人 (100%)	3人 (75.0%)	2人 (100%)	0人 (0%)	
ファッション販売能力検定	2級	1人 (0%)	2人 (100%)	1人 (100%)		
	3級	3人 (100%)	1人 (100%)			
建築CAD検定	2級	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (50%)	
	3級	0人 (0%)	3人 (25.0%)	0人 (0%)	2人 (66.7%)	
リビングスタイリスト	2級					
色彩能力検定	2級	15人 (75.0%)	4人 (100%)	6人 (100%)	22人 (62.9%)	
	3級	36人 (94.7%)	29人 (96.7%)	32人 (97.0%)	27人 (79.4%)	
	UC級			2人 (100%)	6人 (100%)	
マルチメディア検定	ベーシック	19人 (82.6%)	12人 (80.0%)	25人 (96.1%)	4人 (50%)	
Webデザイナー検定	ベーシック	18人 (85.7%)	15人 (83.3%)	26人 (93.1%)	1人 (25%)	
パターンメイキング技術検定	3級	2人 (0%)		3人 (100%)		

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 デザイン環境学科)

学科	項目	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(生活デザイン)	増した	64.2%	55.6%	64.0%	71.1%	70.4%	
	少し増した	32.1%	36.5%	32.0%	23.7%	22.5%	
	あまり変わらない	3.8%	7.9%	4.0%	5.3%	7.0%	
デザイン環境	増した						
	少し増した						
	あまり変わらない						

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 デザイン環境学科) 単位：人

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(生活デザイン)	定員(充足率)	60(113)	60(102)	60(75)	60(113)			
	入学者(志願者)	68(155)	61(123)	45(82)	68(130)			
	総合型選抜	15(35)	14(31)	13(15)	21(33)			
	学校推薦型	26(30)	26(34)	17(17)	24(27)			
	社会人等選抜	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)			
	一般選抜	27(89)	21(58)	15(50)	23(70)			
デザイン環境	定員(充足率)					60(98.3)	60(85.0)	
	入学者(志願者)					59(80)	51(83)	
	総合型選抜					19(19)	20(20)	
	学校推薦型					20(20)	13(13)	
	社会人等選抜					0(0)	0(0)	
	一般選抜					20(41)	18(50)	

(広報活動の状況 デザイン環境学科) 単位：件 オープンキャンパスは学園祭除く

	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2024)	R6 (2025)
(生活デザイン)	オープンキャンパス	146人/2回	83人/6回	134人/3回			
	進学ガイダンス	18会場	8会場	16会場			
	高校訪問	0校	0校	6校			
	SNS投稿(YouTube)	0件	0件	3件			
	SNS投稿(Instagram)	87件	323件	617件			
デザイン環境	オープンキャンパス				123人/4回	105人/3回	
	進学ガイダンス				5会場	7会場	
	高校訪問				20校	40校	
	SNS投稿(YouTube)				3件	8件	
	SNS投稿(Instagram)				484件	55件	

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 デザイン環境学科) 複数回答可

学科	項目	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(生活デザイン)	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける	23.5%	19.7%	23.1%			
	資格をとる	17.0%	18.3%	14.9%			
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムである	26.5%	25.6%	24.6%			
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	8.5%	10.2%	11.9%			
	卒業後の就職に有利	4.0%	2.9%	4.5%			
	公立	20.5%	23.4%	20.9%			
デザイン環境	短期に一般教養や専門知識・技術を身につける				20.3%	21.8%	
	資格をとる				17.6%	15.3%	
	自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムである				25.5%	27.4%	
	4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから				7.8%	8.9%	
	卒業後の就職に有利				7.8%	4.0%	
	公立				20.3%	22.6%	

4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 デザイン環境学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(生活デザイン)	公開講座	7	0	2	2		
	出前・出張講座	4	0	3	2		
	地域連携活動	15	12	22	13		
	行政等審議会員派遣	13	15	12	9		
デザイン環境	公開講座					2	
	出前・出張講座					1	
	地域連携活動					16	
	行政等審議会員派遣					7	

5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 デザイン環境学科) 単位：件

学科	区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
(生活デザイン)	科研費採択	5	5	3	3		
	奨学寄附金採択	0	3	3	1		
	科研費採択					4	
	奨学寄附金採択					1	

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	教務委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務に関する事項を審議する。(教務委員会規程第1条)</li> </ul>
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の事項を審議し、総務委員会及び教授会へ報告した。(規程第5条)</li> <li>・全学共通の学修指導及び業務の執行に関すること。</li> <li>・学科目・単位数・必修選択の区分等の改定及び運用に関する事/特別講義等を含む教育計画の立案企画に関する事/授業時間割の編成及び七曜日表の作成に関する事/非常勤講師候補者の選定に関する事/その他必要な事項。</li> <li>・令和5年度事業計画を策定し、実施した。【令和5年度事業計画兼実績書】</li> <li>(休学者、退学者がでないよう、オンデマンド授業等の対応をすること R5 学長方針事項)</li> <li>・「精神的な理由で通学できない学生への対応方針」を策定し全教職員に周知した。</li> </ul>

(令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① カリキュラムの見直し</li> <li>② SPARC連携開設科目の検討</li> <li>③ 学修ポートフォリオの検証・推進・管理【R5 学長方針事項】</li> <li>④ ティーチングポートフォリオの作成【R5 学長方針事項】</li> <li>⑤ 令和6年度岐阜学プログラムの内容決定</li> <li>⑥ 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの検討</li> </ul>
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和6年度カリキュラムを決定</li> <li>② 令和6年度開講するSPARC連携開設科目を決定</li> <li>③ 着実に実施されていることを確認し、各学科での運用や問題点を共有</li> <li>④ 素案を作成し、執行部会議に検討を継承、全教員へ試行</li> <li>⑤ 令和6年度岐阜学プログラムの内容を決定</li> <li>⑥ GDSCのカリキュラムツリーを作成</li> </ul>
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 面談時期等運用については、各学科の事情により弾力的に対応することを確認</li> <li>④ ティーチングポートフォリオの項目と連携させるため、授業アンケート「分析と今後の対応」を修正</li> <li>⑤ 岐阜学入門の学習内容と岐阜学関連科目を紐づけ</li> </ul>
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>①令和6年度学則別表・令和6年度学修規程別表 ②SPARC実地視察資料 ③令和6年度版 ポートフォリオ ～成長の記録～ ④授業アンケート「分析と今後の対応」様式 ⑤令和6年度岐阜学プログラム【概要説明】 ⑥GDSCのカリキュラムツリー</li> </ul>
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 岐阜市立女子短期大学将来構想を踏まえた、令和6年度カリキュラムの検証</li> <li>② 令和6年度SPARC連携開設科目の実施と令和7年度SPARC連携開設科目の決定</li> <li>③ 教育の質保証向上のため、学修ポートフォリオの継続実施</li> <li>④ 岐阜学プログラムの充実のため、岐阜学関連科目の検討 (SPARCの地域ラボ活用も含む)</li> <li>⑤ 令和6年度GDSCの実施と令和7年度GDSCの継続検討</li> </ul>

(令和6年度重点目標と方策)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和7年度カリキュラム及びカリキュラムツリーの作成 (経営、起業を意識したシラバスの検討を含む)</li> <li>② 令和6年度SPARC連携開設科目の実施と令和7年度SPARC連携開設科目の決定</li> <li>③ 学修ポートフォリオの検証・推進・管理</li> <li>④ 令和7年度岐阜学プログラムの内容決定</li> <li>⑤ GDSCカリキュラムの検証・見直し</li> </ul>
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和6年度カリキュラムを検証し、見直しをおこなう</li> <li>② SPARC各種委員会の審議内容等に応じて検討する</li> <li>③ 実施状況を把握し、必要に応じて内容等を見直す</li> <li>④ 令和6年度岐阜学プログラムを検証し、見直しをおこなう</li> <li>⑤ データ駆動科学教育研究センターと連携して対応する</li> </ul>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	厚生委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

加キラム・ホ <sup>リ</sup> ン及 ビデ <sup>イ</sup> ロマ <sup>ホ</sup> リ -又は設置趣旨	・厚生に関する事項を審議する。(厚生委員会規程第1条)
現状説明	・令和5年度事業計画を策定し、実施した。【令和5年度事業計画兼実績書】 ・以下の事項を審議(12回)し、総務委員会及び教授会(12回)へ報告した。 学生自治会及びその他の学生集会、団体等の課外活動の指導/学生の生活補導及び安全対策など、学生の生活全般の指導/全学共通の開催行事の立案並びに挙行運営/労働安全衛生法及び岐阜市職員安全衛生規程に定める衛生委員会並びに学校保健法に定める学校保健に関する事項につき審議立案/学生及び教職員に対する衛生保健思想の啓発及び指導/その他学内の厚生に関すること ・迅速、効果的に活動するため、他委員会(教務委員会)と連携して上記を審議(7回)した。 ・全教職員に取組みを周知するため、必要に応じて委員長通知(14件)を発出した。 (学生相談体制の改善、周知の徹底 R5 学長方針事項) ・年度初め(4/4、5)のガイダンスで周知し、相談先ポスターを掲示板等に掲示した。 (「学生の声」意見箱の利用周知 R5 認証評価機関指摘事項) ・利用件数2件。その他に、学生の意見等を、学修ポートフォリオ面談、学生クラブによる投書箱による意見収集、相談先ポスター掲示などを通じて周知した。

(R5 年度重点目標の達成状況)

重点目標	① 学生のメンタルヘルス 休学者前年度比減 ② 教職員のストレス予防 受検率前年度比増
達成状況	① 精神的理由にて休学・退学者は、9件(R4 16件) ② ストレスチェック受検率は、96.4%(R4 100%)
改善事項 及び成果	①・相談先に関するポスターを学内掲示した。 →カウンセリングの受診件数 32件(R4 46件) ・教務委員会と連携し「精神的な理由で通学できない学生への対応方針」を策定し、全教職員に周知した。 →科学研究委員会において「学生のメンタルヘルス」に関するFD研修を実施。 ②・ストレスチェックについて実施期間に複数回、教職員に受検するよう通知。 →受診率UP ・長時間となる会議の座長からヒアリングし、改善策を提案した。
根拠資料	【ポスター】 / 【安全衛生管理計画兼実績書】 / 【健康で安全な職場環境の推進について(通知)】
次年度の課題 と改善策	・精神的な理由での休学・休暇を取る学生が依然としており、「学生の声」意見箱など多様なチャンネルの支援体制を引き続き、周知、強化する必要がある。 ・ストレスチェックを受検しない者が依然としており、自己管理する意識付けを引き続き強化する必要がある。

(R6 年度重点目標と方策)

重点目標	① 学生のメンタルヘルス 休学者前年度比減 ② 教職員のストレス予防 ストレスチェック受検者前年度比増
方策	① カウンセリング制度、適時・適切な情報を多様な方法で学生に周知する。 ② ストレスチェック受検期間に、多様な機会を通じて受検することを周知する。

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	進路支援委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	・進路支援に関する事項を審議する。(進路支援委員会規程第1条)
現状説明	<p>・令和5年度事業計画を策定し、実施した。【令和5年度事業計画兼実績書】</p> <p>・以下の事項を審議(定期10回)し、総務委員会及び教授会(10回)へ報告した。</p> <p>(1) 学生の進路支援に関すること 進路支援講座の計画及び実施/進路決定者、内定率の報告/インターンシップに関する説明会実施/サイボウズデゼエの後継サービスの検討、実施/岐阜市役所内インターンシップの実施/ハローワーク相談会の実施/卒業生アンケートの実施/合同企業説明会の実施(対面)</p> <p>(2) その他進路支援に関すること <b>(在学生のキャリアパスを広報すること R5 学長方針事項)</b></p> <p>・入試委員会や広報委員会と協力して、オープンキャンパス資料や大学案内に取得資格や進路先の情報を掲載した。</p>

(令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 内定状況、編入学状況の維持及び報告</p> <p>② 進路支援講座の計画、実施</p>
達成状況	<p>① 3月31日現在就職内定率97.9% 編入学80.0%</p> <p>② 全36講座実施</p>
改善事項及び成果	<p>① 報告がない学生には委員から担任、ゼミ担当へ依頼し状況把握した。</p> <p>② 入学時より編入学希望する学生が一定数おり、継続した講座を実施して学力を上げるため、編入学試験対策講座に重点をおいて開催数を増やした。</p> <p>・市立短期大学の強みとして公務員合格者の増強を目指すため、公務員試験対策に重点を置いて開催数を増やした。</p> <p>・コロナ禍後にもオンラインでの面接が実施されているため、オンラインでの面接に備えて講座を実施した。</p> <p>・希望制をとり面接に不安を感じている学生への綿密な対策・対応のため少人数制で講座を行った。</p> <p>→受講者の意見より、受講して良かった等の意見があったため、受講者の不安や、就職に関する疑問を解決できた。</p>
根拠資料	【令和5年度事業計画兼実績書】 【就職・進学の実績経緯】 【講座受講者アンケート】
次年度の課題と改善策	<p>① 学生への進路状況の報告を周知するとともに、担任教員等と適時の情報共有体制を継続する。</p> <p>② 選択制の支援講座の参加率が低かったため、効果的な進路支援講座の開催の企画が必要である。</p> <p>・毎年数名進路選択に不安がある学生が出ていることから、配慮・改善策を策定する必要がある。</p>

(令和6年度重点目標と方策)

重点目標	<p>① 在学生のキャリアパスを広報する【R6学長方針事項】</p> <p>② 学生目線に立った進路支援の内容を充実</p>
方策	<p>① 各学科の具体的進路先と卒業生アンケートを組み合わせたPRの実施</p> <p>② 多様な進路支援講座の計画、実施</p> <p>・配慮の必要な学生へ具体的な対策の検討</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	広報委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	・ 本学の特色や魅力を広く発信するために必要な事項を審議する。(委員会規程第1条)
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度事業計画を策定し、実施した。【令和5年度事業計画書】</li> <li>・ 以下の事項を審議(定期6回)し、総務委員会及び教授会(6回)へ報告              広報活動の企画・運営に関すること/公式メディアの編集・発行に関すること/外部メディアの情報掲出に関すること/その他広報に関すること  <b>(教員の研究成果(魅力発信)を市役所ホール等で広報すること R5 学長方針事項)</b></li> <li>・ 科学研究委員会と共同で、デザイン環境学科の卒業研究発表期間に、ぎふメディアコスモス1階にスタッフプロフィールをポスター掲示して来館者に発信した。</li> </ul>

(令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	① 入学者の定員充足のための早めの広報活動
達成状況	① オープンキャンパス特設サイトを4/27に公開。2024年用は3/26に公開した。
改善事項及び成果	① 委員会内での協議と教授会審議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適時、教授会で広報の状況を報告した。</li> <li>・ 特設サイトに情報を集約することで、閲覧しやすくした。</li> <li>・ 動画でも情報を見てもらうため、YouTubeショートに掲載数を増やした。</li> <li>・ 情報内容が形骸化しないように、学生有志による情報を企画した。 →情報のコンテンツを増やすことができた。</li> </ul>
根拠資料	【新学科紹介パンフレット】 【YouTube】 【大学案内2025】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特設サイトを公開したが、情報を早期に継続して掲載できなかった。 →委員会で早期に企画し、必要な情報を実施機関に提供を求める。</li> </ul>

(令和6年度重点目標と方策)

重点目標	① 学科等実施機関に提言し、本学の魅力を企画、広報する。【R6 学長方針事項】
方策	① 委員会内での協議と教授会審議

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	入試委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	・ 入学者選抜及び入学試験に関する事項を審議する。(入試委員会規程第1条)
現状説明	<p>・ 令和5年度事業計画を策定し、実施した。【令和5年度事業計画兼実績書】</p> <p>・ 以下の事項を審議(14回)し、総務委員会及び教授会へ報告した。</p> <p>入学者選抜の実施方法及び制度に関すること/入学資格に関すること/入学者の募集方針に関すること/入学試験の実施に関すること/入学試験の情報開示に関すること/入学者選抜に係る点検・評価及び改善に関すること/大学入試センター試験に関すること/入学者選抜及び入学試験の説明会等に関すること/その他入学試験に関し委員会が必要と認める事項</p> <p><b>(R6年度以降の入試選抜対応方針を管理すること R5学長方針事項)</b></p> <p>・ 方針に基づき併願枠、専門科の推薦枠、指定校枠を設け募集した。</p>

(令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 入学者定員を確保する。</p> <p>② オープンキャンパス来場者を増やす。</p>																				
達成状況	<p>① 入学誓約者 153名/定員 200名(充足率 77% R4は 84%)</p> <p>② 来場者 340名(R4は 386名)</p>																				
改善事項及び成果	<p>① 学校推薦型選抜に指定校枠(28校)を設けた。(志願者推移は下表のとおり)</p> <p>→指定校枠の導入により一定の定員確保効果が見られる。特に、市内の高校からの志願者増につながっている。13校から27名応募。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>総合型選抜 (R4→R5→R6)</th> <th>学校型選抜 (R4→R5→R6)</th> <th>計 (R4→R5→R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国際コミュニケーション</td> <td>16→15→21</td> <td>23→27→13(内、指定校7)</td> <td>39→42→34</td> </tr> <tr> <td>健康栄養</td> <td>29→13→22</td> <td>11→12→13(内、指定校10)</td> <td>40→25→69</td> </tr> <tr> <td>デザイン環境</td> <td>33→19→20</td> <td>27→20→13(内、指定校10)</td> <td>60→39→33</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>78→47→63</td> <td>61→59→39(内、指定校27)</td> <td>139→106→102</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 6月のオープンキャンパスで全学科の説明等が体験できるように時間帯を確保した。キャンパスツアーやフリートークスペース(2階CeNCER企画)を設けた。</p> <p>→来場者の高校3年生は専攻する学科候補を絞っていることが判明し、今後の対応につながった。</p>	学科	総合型選抜 (R4→R5→R6)	学校型選抜 (R4→R5→R6)	計 (R4→R5→R6)	国際コミュニケーション	16→15→21	23→27→13(内、指定校7)	39→42→34	健康栄養	29→13→22	11→12→13(内、指定校10)	40→25→69	デザイン環境	33→19→20	27→20→13(内、指定校10)	60→39→33	計	78→47→63	61→59→39(内、指定校27)	139→106→102
学科	総合型選抜 (R4→R5→R6)	学校型選抜 (R4→R5→R6)	計 (R4→R5→R6)																		
国際コミュニケーション	16→15→21	23→27→13(内、指定校7)	39→42→34																		
健康栄養	29→13→22	11→12→13(内、指定校10)	40→25→69																		
デザイン環境	33→19→20	27→20→13(内、指定校10)	60→39→33																		
計	78→47→63	61→59→39(内、指定校27)	139→106→102																		
根拠資料	【入学者選抜の状況】/【オープンキャンパスリーフレット】/																				
次年度の課題と改善策	<p>・ 受験生が出願しやすい募集方法、出願資格になっているか改善の必要がある。</p> <p>・ 学科の学修内容や選抜試験の方法について高校や受験生に対し情報提供が十分に周知できたのか、広報の方法を検証する必要がある。</p>																				

(令和6年度重点目標と方策)

重点目標	<p>① 入学者定員を確保する。</p> <p>② オープンキャンパス来場者を増やす。</p> <p>③ わかりやすい入試情報を相手先に応じて効果的に発信する【R6学長方針事項】</p>
方策	<p>① 早期に入学者選抜の方針を策定し、募集要項を公表する。新学科カリキュラムのPRや指定校推薦の学生募集のため、全学体制で訪問計画する。</p> <p>② 学内関連組織と連携し、入試広報(オープンキャンパス企画等)を充実する。</p> <p>③ 高校訪問時の過去情報を整理し、必要な情報を提供する。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	科学研究委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディグリー・ポリシー又は設置趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育及び研究の充実・向上に必要な事項を審議するとともに教育・研究に関する学内の調整を図る。(科学研究委員会規程第1条)</li> <li>※令和4年7月27日より図書科学研究委員会を科学研究委員会に組織(規程)改正</li> </ul>
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度事業計画を策定し、実施した。【令和5年度事業計画書】</li> <li>以下の事項を審議(定期11回)し、総務委員会及び教授会(11回)へ報告</li> <li>研究紀要の受付、編集、刊行及び投稿規定に関すること/教育方法の研究・研修等に関すること/施設及び機器の教育・研究利用に関すること/受託研究、奨学研究、共同研究等に関すること/在外研究員及び内地研究員に関すること/発明に関すること/公開講座に関すること/各種受賞候補者の推薦に関すること/その他、学術情報、紀要及び教育・研究に関すること</li> <li>公開講座は13講座を開催(のべ実施回数31回)、402名参加</li> <li>研究交付金監査を実施</li> <li>研究倫理教育研修を実施</li> <li>研究交付金関連規定を見直した</li> </ul>

(令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 客員教員の科学研究費応募資格の規定化</li> <li>② 時宜を得たテーマで効果的なFD研修を複数回実施すること。【R5学長方針事項】</li> <li>③ 教員の研究成果(魅力発信)を市役所ホール等で広報すること。【R5学長方針事項】</li> </ul>
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「科学研究費の応募資格に関する申し合わせ」の制定により規定化</li> <li>② FD研修を年度内に3回実施</li> <li>③ 生活デザイン学科卒業研究発表会会場にて、教員プロフィールの展示を実施(広報委員会と連携)</li> </ul>
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD研修を複数回実施したことで、学内に内在する課題について組織的に取り組む姿勢を確認できた。</li> </ul>
根拠資料	【第3回FD研修の資料】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査等により受講者の声を聞き取り、ニーズに応えた公開講座の企画</li> <li>研究交付金執行要領による「研究費を交付された教員による成果物の公表について」の方策の検討</li> </ul>

(令和6年度重点目標と方策)

重点目標	① 知的財産の審査及び管理方法の整理に向けた検討準備【R6学長方針事項】
方策	① 他大学等からの情報収集や委員会での協議

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	地域連携センター運営委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・地域連携及び地域貢献活動の組織的取り組みを充実し、岐阜市立女子短期大学学則第57条第3項の規定に基づき、附属図書館の運営を協議、実施する。 (地域連携センター設置規程第1条)</p>
現状説明	<p>・令和5年度活動計画を策定し実施した。【令和5年度事業計画兼実績書】</p> <p>・多岐にわたる活動内容の検討と、外部からの不定期の依頼に迅速に対応するため、定期的に開催する方式をとらず、Teams内での協議と必要に応じて開催する対面での委員会により運営している。毎月の活動内容は教授会へ報告している。</p> <p>・主な活動内容は次のとおり。</p> <p>地域連携及び地域貢献活動の組織的取り組みの企画立案に関すること/地域連携及び地域貢献活動の総合窓口機能に関すること/本学の教員又は組織の地域連携及び地域貢献活動の支援に関すること/地域のニーズの把握に関すること/附属図書館の管理運営、利用に関すること/図書購入に関すること/本学の歴史資料の収集整理に関すること/その他必要と認めた事項に関すること</p> <p>(図書館空間をオープンキャンパス等に活用すること R5 学長方針事項)</p> <p>・キャンパスツアーやフリートークスペース(2階CeNCER企画)を設けた。</p> <p>・岐阜連携都市圏の高校生が利用できるように規程を一部改正し、夏季休業期間に利用を周知した。</p>

(令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 全教員が地域連携に関わる仕組みの実施</p> <p>② 図書館の適正な運営</p>
達成状況	<p>① 教員へのマッチングへ行うための受付、フローを作成し教授会へ報告した。</p> <p>② 図書館利用者数 16,114人 貸出冊数 2,991冊 (R6.3.31現在)</p>
改善事項及び成果	<p>① ・情報共有しマッチングを円滑にするため、受付フォームの見直しを行った。</p> <p>・管理しやすくするため、新たな地域年報の書式を作成し、運用を開始した。</p> <p>・活動をわかりやすく公開するため、CeNCERインスタの更新頻度を高めた。</p> <p>② ・データベースとして日経テレコンを導入し、学生のレポート・論文作成や就職活動を支援した。</p> <p>・例年比約3倍となる1,500冊余りの図書の除籍作業を行い書架スペースを確保。空いたスペースで見やすく利用しやすい書架造りを行い、学生の利用促進につなげた。</p>
根拠資料	【受付フォーム】
次年度の課題と改善策	<p>① 定員の未充足が続いているため、学生確保につながる連携事業の企画</p> <p>・夏季休暇時高校生への図書館開放の継続</p> <p>・S-CeNCERによる連携事業の検討の継続</p> <p>・海外オンライン連携の検討</p> <p>② 利用者数、貸出冊数の増加を目指す。</p> <p>・見やすく手に取りやすい書棚とするための、書架整理作業の継続</p> <p>・学生のニーズにマッチした図書資料の収集</p> <p>・現在館内利用のみとしている雑誌を、館外貸出可とする旨の検討</p>

(令和6年度重点目標と方策)

重点目標	<p>① 学生確保につながる連携事業の拡大</p> <p>② 図書館の適正な運営</p> <p>③ 図書館の新たな管理・利用方法を企画すること 【R6 学長方針事項】</p>
方策	<p>① ・企画の検討、広報強化</p> <p>・広報強化、高校訪問時での周知</p> <p>・S-CeNCERによる連携事業の検討の継続</p> <p>② マニュアルの見直し、企画の検討</p> <p>③ 管理運営に係る司書職、事務職、教員職の役割の検討</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価等報告書

## (評価対象)

実施機関名	データ駆動科学教育研究センター	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決する実践的な能力の装着及び地域社会を牽引する人材の育成並びに数理・データサイエンス・AIの教育研究分野の発展に寄与すること。(データ駆動科学教育研究センター設置規程第1条)</p>
現状説明	<p>・令和5年度活動計画を策定し実施した。【令和5年度事業計画兼実績書】</p> <p>・以下の事項を審議し、総務委員会及び教授会へ報告した。</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育及び情報に関する教育の推進に関すること/数理・データサイエンス・AI教育分野のカリキュラムの計画、運用管理に関すること/数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検及び評価に関すること/数理・データサイエンス・AI教育に関するリカレント教育の推進に関すること/データ駆動・AIに関する研究や社会連携の推進に関すること/教育の情報化の推進に関すること/本学のキャンパスネットワークシステム(G-WING)の維持管理及び改善に関すること/情報処理機器利用に関すること/情報処理LAB、情報処理自習室の利用に関すること/その他、センター長が必要と認めた事項に関すること</p> <p style="text-align: right;">(規程第3条)</p> <p>・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に申請し、令和5年8月25日、認定された。</p>

## (令和5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① データ駆動科学教育研究センターの運営やカリキュラムの策定</p> <p>② R6年度末の情報システムの更新(R5年度当初・予算申請)への対応</p>
達成状況	<p>① 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認定を受けた。</p> <p>・グローバルデータサイエンスコース(GDSC)のカリキュラムの策定および、カリキュラムツリーを作成した。</p> <p>② システム更新の予算を市議会に提案し、承認された。</p>
改善事項及び成果	<p>① SPARC事業と連携し、岐阜大学からデータサイエンスに関する科目を連携開設科目として設定した。</p> <p>② システム更新に合わせて、セキュリティの強化及び実稼働状況から数量の削減、適正化を行った。</p>
根拠資料	【令和6年度一般会計予算】
次年度の課題と改善策	<p>① データ駆動科学教育研究センターの運営やカリキュラムのさらなる検討</p> <p>② 次期情報システム更新への対応</p>

## (令和6年度重点目標と方策)

重点目標	<p>① 学科の専門分野に対応したDS授業を企画する。【R6学長方針事項】</p> <p>② 業務効率に資する情報機器の利活用方法を企画する。【R6学長方針事項】</p>
方策	<p>① SPARC事業や地域・海外の大学との連携も踏まえ、他大学の事例等も参考にしながら、データサイエンス授業を企画していく。</p> <p>② 現在の情報システムの課題等も踏まえて、本委員会や学内の意見を取り入れながら、予算の範囲内で業者と連携して情報システム更新に絡めて実施していく。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	自己評価委員会	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備に係る総合的な活動について自己点検及び評価を行い、その結果を踏まえた本学の教育研究活動等の継続的な質の改善につなげるにより質を維持し向上を図る取組みを行う。(規程第1条)</p>
現状説明	<p>・以下の事項を審議(10回)し、総務委員会及び教授会へ報告した。</p> <p>自己評価等の基本方針及び自己評価項目の策定に関すること/自己評価等の実施及び内部質保証の体制に関すること/自己評価等の結果の公表に関すること/学校教育法に定める認証評価に関すること/教員活動評価に係るデータベースの運用に関すること/その他自己評価等及び内部質保証に関し必要と認めること</p> <p>・実施機関の取組みを改善するため、助言書を通知(1回)した。</p> <p>・学長に自己評価委員会報告書を報告(1回)した。</p> <p>(教員活動データベースを確立し、評価結果を公表すること R5 学長方針事項)</p> <p>・各学科から提出された個票を委員会で確認し、必要な助言を付し、学長に報告した。短大全体の評価結果を本学サイトに公表した。</p> <p>(教員活動データベースを教員組織の適切性に活用すること R5 認証評価機関指摘事項)</p> <p>・教員組織の資質状況を学長コメントを付し教員組織の適切性を本学サイトに公表した。</p> <p>(教員活動評価結果を各教員へ通知し、適正化を点検すること R5 改善指示書)</p> <p>・学科長を通じて、所属する教員へ評価結果を通知した。(10/13)</p> <p>・評価結果に学内分布を付すことで、教員自らの再点検を促すととともに、学科長から必要な助言をするよう指示した。</p> <p>(教育、地域・社会貢献、学内運営の区分ごとの評価を検討すること R5 改善指示書)</p> <p>・教員人事委員会と調整し、教育、地域・社会貢献、学内運営の区分ごとの評価を整理し、教員活動データベースの運用についての当該規定を改定した。(11/22)</p> <p>(その他 R5 認証評価機関指摘事項)</p> <p>・必要な助言をしてきたため、現状及び検討状況を各実施機関に報告を指示した。</p>

(R5 年度重点目標の達成状況)

重点目標	① 認証評価機関から認証を受ける
達成状況	① 認証評価機関から「適合」の認定を受けた(R6.3)。
改善事項及び成果	<p>① ・自己評価委員会に作業部会を設置し、認証評価機関へ資料を提出し、書類審査、実地調査を受けた。主な指摘事項等は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の定員管理を徹底すること。(是正勧告)</li> <li>・3つのポリシーの全学的な策定方針が定めること。(改善課題) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アンケートの更なる活用を期待する。</li> <li>・「学生の声」意見箱の周知方法を改善が望まれる。</li> <li>・教育研究活動の環境整備に関する方針策定の検討が望まれる。</li> <li>・事務職員の短大運営に係る研修機会の充実が望まれる。</li> <li>・短期大学の運営に係る経費の抑制等に努めることが望まれる。</li> </ul> </li> </ul> <p>⇒改善事例として、本学独自の「学修ポートフォリオ」の仕組みが評価されたことから、今後も自己点検等報告書から必要な助言等を委員会から実施機関に通知していく。</p>
根拠資料	【事業計画兼実績書】 / 【自己評価等報告書に関する助言】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証評価機関の指摘事項等を整理し、対策の工程を委員会から指示する。</li> <li>・対応措置が根治対応となるように組織的に対応する。</li> </ul>

(R6 年度重点目標と方策)

重点目標	① 認証評価機関の指定事項等を改善する。【R6 学長方針事項】
方策	① 各実施機関の現状を把握し、委員会から必要な助言をする。

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

様式

## 自己評価等報告書

(評価対象)

実施機関名	事務局	代表者氏名	委員長
評価年度	令和5年度	作成者氏名	委員会事務局

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシー又は設置趣旨	<p>・大学の処務、会計及び施設等に関する事務を処理する。 (岐阜市立女子短期大学条例第6条)</p>
現状説明	<p>・令和5年度事業計画を策定し、実施した。</p> <p>・以下の事務を所掌した。 大学の財務及び庶務に関すること/大学施設の管理及び運営に関すること/教務に関すること/学生補導に関すること/職員又は学生の福利厚生及び保健衛生に関すること/附属図書館に関すること/情報の公開及び個人情報の保護に関すること/その他、大学に関すること(岐阜市立女子短期大学処務規則第5条)</p> <p>・学長の命を受け、所掌事務を掌理するとともに、他の実施機関に職員を配置し、教員組織と連携・協働した。</p> <p><b>(事務職員の短大運営に係る研修機会の充実 R5 認証評価機関指摘事項)</b></p> <p>・定期の全国公立短期大学協会研修(R5.8.2 R6.1.22)に加えて、大学コンソーシアム研修(R5.11.17)やSPARC研修(R6.2.1)の個別研修に参加した。</p> <p>・全国公立短期大学協会Webサイトに、情報交換のページを設け、研修の機会を設けた。</p> <p><b>(短期大学の運営に係る経費の抑制等 R5 認証評価機関指摘事項)</b></p> <p>・R4年度決算を9/25市議会承認、R6年度予算を3/22市議会承認を受けた。</p> <p>・市財政当局が示す予算編成方針に基づき、事業の改廃を行い経常経費の抑制に努めたが、R6年度予算は、臨時的な設備等の更新のため、前年度増となった。</p> <p><b>(その他)</b></p> <p>・R5年度教育後援会決算、R6年度予算を5/26総会承認。</p> <p>・教授会を含む16の学内委員会等に職員を配置し、資料等の庶務調整を実施。</p> <p>・学外の団体代表等からなる運営委員会と意見交換を2回実施した。</p> <p>・情報公開請求 33件(内、入試成績開示7件)</p>

(R5年度重点目標の達成状況)

重点目標	<p>① 中長期方針(将来構想)を策定する</p> <p>② 定員充足率100%</p> <p>③ 就職内定率前年度以上(97%以上)</p>
達成状況	<p>① 将来構想を策定した。(R3.3)</p> <p>・設置者(岐阜市)による将来構想委員会に諮問し、計6回の審議を経て、答申を受け、将来構想を策定した。</p> <p>② 充足率は、76.5%</p> <p>・国際コミュニケーション学科55.6%、健康栄養学科104%、デザイン環境学科85.0%</p> <p>③ 内定率は、97.9%</p> <p>・英語英文学科93.8%、国際文化学科100%、食物栄養学科97.7%、生活デザイン学科98.2%</p>
改善事項及び成果	<p>① 将来構想委員会の審議情報を、逐次、教授会等を通じて報告し、教員組織と情報共有することで、教員組織の対応準備を促し、改革意識の醸成を期待した。</p> <p>② 併願の採用やスクーリング等の制約を見直すことで、多様な学生が出願しやすくなるように見直したが、志願者数が前年度比で減少した。</p> <p>・高校訪問時の情報を同一フォーマットでファイル化することで、効率的な情報交換を促し、広報等の戦略につなげた。</p> <p>③ 公務員志望の学生に対し、市と協議して、岐阜市役所のインターンシップ枠を創設し、15名が参加した。</p>
根拠資料	<p>【令和5年度事業計画兼実績書】 / 【市議会一般会計決算/予算】 / 【教育後援会決算/予算】 / 【学生募集要項】 / 【本学Webサイト】</p>
次年度の課題と改善策	<p>① 市と協力して早期に将来構想基本計画を策定していくため、市に新たな教育体制を提案し、その課題や調整事項を整理していく必要がある。</p> <p>② 定員未充足が続いており、高校訪問時に集約した情報も踏まえて、広報戦略を早期</p>

	に検討していく必要がある。 ③・学生ニーズを把握し、キャリアパス事例などを情報提供していく必要がある。
--	--

(R6 年度重点目標と方策)

重点目標	① 将来構想に係る基本計画を策定する ② 定員充足率 100% ③ 就職内定率前年度以上(98%以上)
方策	① 市の作業状況、調整課題等を情報共有し、教員組織との作業を調整する。 ② 広報戦略、学科の教育研究の魅力発掘などを学内委員会へ早期の検討を促す。 ③ 早期のキャリア教育と未確定学生へのプッシュ面談を充実する。

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2枚を超えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。